

# 社会司教委員会シンポジウム

## 貧困

勝谷太治司教

### 現代世界憲章

- 「公会議は実際的かつ急を要する結論に及ぶにあたり、人間に対する尊敬の念を植え付ける。すなわち各自は隣人を例外なしに「もう一人の自分」と考えなければならず、何よりもまず隣人の生活と、それを人間にふさわしいものとして維持するために必要な手段について考慮すべきである。それは、貧しいラザロのことをまったく顧みなかった金持ちのようにならないためである」 27
- 「すべての人は理性的な靈魂を恵まれ、神の像として造られ、同じ本性と同じ根源をもち、さらにキリストによってあがなわれ、神から同じ召命と目的を与えられている。したがって、すべての人が基本的に平等であることは、よりいっそう認められなければならない」 29
- 「社会的差別であれ、文化的差別であれ、あるいは性別・人種・皮膚の色・地位・言語・宗教に基づく差別であれ、基本的人権に関するすべての差別は神の意図に反するものであり、克服され、排除されなければならない。・・・人々の間に差異があるのは当然のこととはいえ、人格の尊厳は平等であり、このことから、より人間らしい公正な生活条件に届くことが要求される」 29
- 「少なからざる人々、とくに経済的發展を遂げた地域における多くの人が経済的なことがらに支配されているように見え、そのために、彼らの個人ならびに社会生活はほぼ全面的に一種の経済万能主義に染まっており・・・ある地域においては弱者の社会条件の後退や貧困者に対する軽蔑さえ生み出している。」 63
- 「無数の群衆が今なお生活必需品さえ欠いているのに対し、ある人々は、低開発地域においてさえ、<sup>ごうしよ</sup>豪華な生活をし、富を浪費している。・・・少数の人間が絶大な決定権を握り、多数の者は、自分の発意と責任において行動する可能性さえも持たず、しばしば人間にふさわしくない生活と労働の条件に置かれている」 63
- 「(経済發展)を少数の人間や巨大な経済力をもつ団体の裁量、または政治共同体だけ、あるいは若干の強国の裁量に任せてはならない。むしろ、どの段階においても出来るだけ多くの人々が、また国際関係においてはすべての国が、経済發展の方向付けに積極的な役割を果たすべきである。」 65
- 「神は、地とそこにあるあらゆる物を、すべての人、すべての民の使用に供したのであり、したがって造られた富は、愛を伴う正義に導かれて、公正にすべての人に

行き渡るはずのものである。」69

### 教皇フランシスコ「福音の喜び」

「殺してはならない」というおきてが人間の生命の価値を保障するための明確な制限を設けるように、今日においては「排他性と格差のある経済を拒否せよ」とも言わなければなりません。この経済は人を殺します。(福音の喜び 53)

#### 「排他性」

路上生活に追い込まれた老人が凍死してもニュースにならず、株式市場で二ポイントの下落があれば大きく報道されることなど、あつてはならないのです。これが排他性なのです。(福音の喜び 53)

#### 「格差」

飢えている人々がいるにもかかわらず食料が捨てられている状況を、私たちは許すことができません。これが格差なのです。(福音の喜び 53)

わたしたちは「廃棄」の文化をスタートさせ、・・・排他性は・・・もはや社会の底辺へ、隅へ、権利の行使できないところへ追いやられるのではなく、社会の外へと追い出されてしまうのです。排除されるとは「搾取されること」ではなく、廃棄物、「余分なもの」とされることなのです。(福音の喜び 53)

この状況にあっても、経済における「トリクルダウン理論」を支持する人がいます。この理論は、自由市場によって促進されるすべての経済成長は、世の中に平等を広げ、<sup>ソーシャル・インクルージョン</sup>社会的「包摂」を生み出すと仮定しています。いまだまったく立証されていないこの理論は、経済的権力を把握する人々の善意と、主流の経済システムの神話化への、大雑把で無邪気な信頼を表しています。仮定された結果が生み出されるまでの間、排除された人々は待ち続けるのです。他者を排除する生活様式を維持するために、また自己中心的な理想に陶醉するために、無関心のグローバル化が発展したのです。(福音の喜び 54)

### 参考資料

世界の2割に満たない国が世界の約7割の富を占有している (GDPによる比較)

飢餓が原因で1日に4~5万人(1年間に1500万人以上)の人が亡くなっており(FAOより)、そのうち7割以上が子どもたちです。

## 世界中には食べ物が足りないの？

「飢餓」になるのは、食糧が十分につくられていないからではありません。穀物は年間24億トン生産されています。これは世界中の人が生きていくのに必要な量のおよそ2倍になります。

24億トン（年間穀物生産量）÷71億人（世界の人口）

⇒ 338kg（1人当たり）

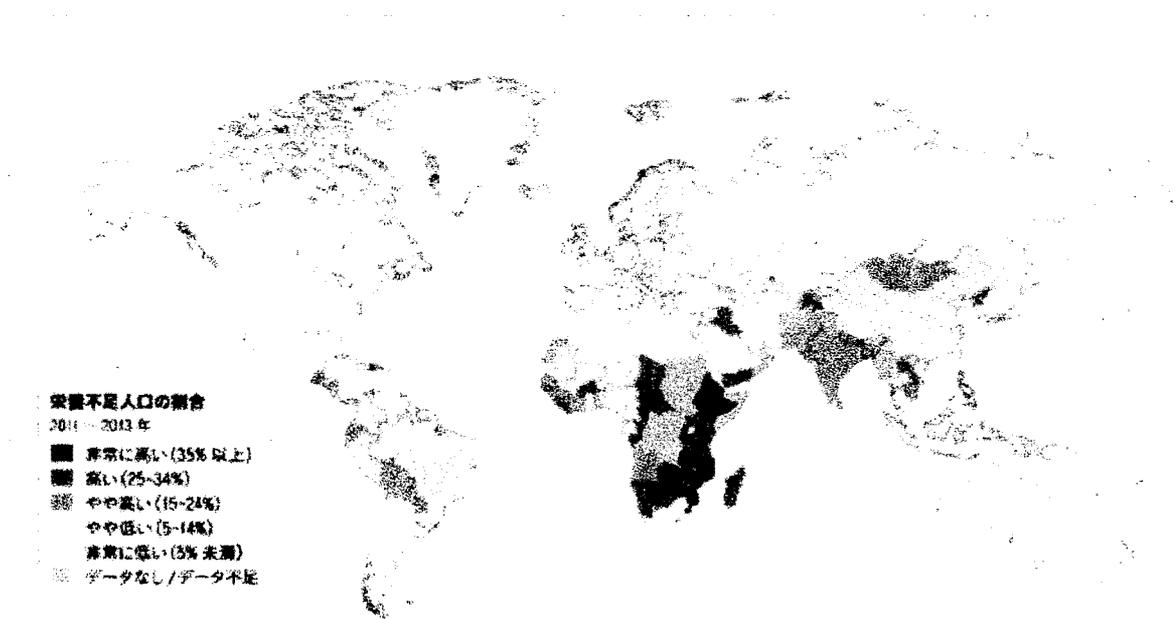
※1人当たり1年間の標準量は 180kg

それでも食べ物の不足している人がいるのは、どうしてでしょうか？

### たくさんの穀物はどこへ

1人当たりの食糧供給量を比較すると、日本では必要なカロリーより31%も多く、ソマリアでは16%不足しています。

私たちのように食べるものがいつでも十分手にはいるのは、世界のおよそ2割の人だけなのです。



## 世界の栄養不足人口

### 食べられない人がいる理由

異常気象のため、農作物を十分に作るができなくなった場合、その国では足りないぶんを輸入でまかなわなければなりません。しかし価格は、国際市場の物価に左右されるため高くなり、買うことができない人々も出てきます。

### 生産される食料の約3分の1が捨てられている

食べられない人々がいる反面、世界では、生産される食料の約3分の1が食べられることのないまま捨てられています。

## 輸入大国日本は廃棄大国

日本の食品の半分以上は、世界から輸入したものです。

私たちは年間 5500 万トンの食糧を輸入しながら、1800 万トンも捨てています。

食糧の廃棄率では世界一の消費大国アメリカを上回り、**廃棄量は世界の食料援助総量 470 万トン(WFP)をはるかに上回り、3000 万人分（途上国の 5000 万人分）の年間食料に匹敵しています。**

日本の食品廃棄の実に半分以上にあたる 1000 万トンが家庭から捨てられています。

この家庭からでる残飯の総額は、日本全体で年間 11 兆円

(旧科学技術庁「資源調査会第 1 2 3 回報告」より)

これは日本の農水産業の生産額とほぼ同額です。

さらにその処理費用で、2 兆円が使われています。

日本はほど大量に食糧を輸入しながら、廃棄を続けている国はないのです。

## 日本の食糧廃棄量

2012 年度 農林水産省食品ロス統計調査など



## ミレニアム開発目標

2000 年 9 月に開催された国連ミレニアム・サミットで、国際社会は 国連ミレニアム宣言を採択しました。

このミレニアム宣言は、平和と安全、開発と貧困、環境、人権とグッドガバナンス（良い統治）、アフリカの特別なニーズなどを課題として掲げ、21 世紀の国連の役割に関する 明確な方向性を提示しました。

この国連ミレニアム宣言と 1990 年代に開催された主要な国際会議やサミットで 採択された国際開発目標を統合し、ひとつの共通の枠組みとしてまとめたものが ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs) です。ミレニアム開発目標では、2015 年までに達成すべき 8 つの目標が掲げられています。

ミレニアム開発目標の多くは子どもの健康と福祉に直接関連しているため、これらを達成することにより、多くの子どもたちの生活を改善することができます。

### ミレニアム開発目標 1

極度の貧困と飢餓の撲滅

2015 年までの具体的目標 (1990 年を基準にして)

- 1日1ドル未満で生活する人口の割合を半減させる。
- 飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる。

#### **ミレニアム開発目標 2**

普遍的初等教育の達成

##### **2015年までの具体的目標（1990年を基準にして）**

- すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする。

#### **ミレニアム開発目標 3**

ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上

##### **2015年までの具体的目標（1990年を基準にして）**

- 初等・中等教育における男女格差の解消を2005年までには達成し、2015年までにすべての教育レベルにおける男女格差を解消する。

#### **ミレニアム開発目標 4**

乳幼児死亡率の削減

##### **2015年までの具体的目標（1990年を基準にして）**

- 5歳未満児の死亡率を3分の2減少させる。

#### **ミレニアム開発目標 5**

妊産婦の健康の改善

##### **2015年までの具体的目標（1990年を基準にして）**

- 妊産婦の死亡率を4分の3減少させる。

#### **ミレニアム開発目標 6**

HIV/エイズ、マラリアその他の疾病の蔓延防止

##### **2015年までの具体的目標（1990年を基準にして）**

- HIV/エイズの蔓延を阻止し、その後減少させる。  
マラリアおよびその他の主要な疾病の発生を阻止し、その後発生率を下げる。

#### **ミレニアム開発目標 7**

環境の持続可能性の確保

##### **2015年までの具体的目標（1990年を基準にして）**

- 安全な飲料水を継続的に利用できない人々の割合を半減する。  
2020年までに、最低1億人のスラム居住者の生活を大幅に改善する。
- 持続可能な開発の原則を各国の政策や戦略に反映させ、環境資源の喪失を阻止し、回復を図る。

#### **ミレニアム開発目標 8**

開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

##### **2015年までの具体的目標（1990年を基準にして）**

- 開放的で、ルールにもとづいた、予測可能でかつ差別のない貿易および金融システムのさらなる構築を推進する。

(グッドガバナンス《良い統治》、開発および貧困削減に対する 国内および国際的な公約を含む)

- 最貧国、ならびに内陸国および小島嶼開発途上国の特別なニーズに取り組む。
- 国内および国際的な措置を通じて、開発途上国の債務問題に包括的に取り組み、債務を長期的に持続可能なものとする。
- 開発途上国と協力し、適切で生産性のある仕事を若者に提供するための 戦略を策定・実施する。
- 製薬会社と協力し、開発途上国において、人々が安価で必須医薬品を 入手・利用できるようにする。
- 民間部門と協力し、特に情報・通信分野の新技术による利益が得られるようにする。

### **2012 年のミレニアム開発目標の達成状況概況**

#### **貧困に苦しむ人々の数はすべての地域において減少している**

貧困状況が測定されるようになって以降、貧困に苦しむ人々の数は、サブサハラ・アフリカを含むすべての地域で減少している。1日 1.25 ドル以下の生活をしている人々の割合は、1990 年の 47%から 2008 年には 24%にまで落ちている。(参考までに、最近世界銀行は極度の貧困率を 2020 年までに 9%、2030 年までに 3%にするなどの目標を設定している。)

#### **貧困削減のための目標は達成されている**

事前の推測としては、世界の 1日 1.25 ドル以下の貧困率は 1990 年の半分以下にまで改善されているとされている。もしこの事実が確認されれば、2015 年前に MDGs の目標が達成されたことになる。

#### **世界で改善された水源へのアクセスがない人々の割合を半減させるという目標は達成されている**

持続的な安全な飲水へのアクセスのない割合を半分に削減する目標も 2010 年までに達成されている。具体的には 1990 年の 76%から 2010 年には 89%まで改善されている。20 億人の人が水道管や井戸による水へのアクセスを獲得している。

#### **2 億人以上のスラム居住者の生活の改善**

途上国の都市部に住む人のうち、2000 年には 39%がスラムに住んでいたが、2012 年には世界のスラム人口は 33%まで改善されている。2 億人以上のスラム居住者が改善された水源、衛生的な施設、混雑しすぎしていない高耐久性住宅へのアクセスが可能になっている。これは 2020 年の目標を達成していることになる。

#### **世界での初等教育における男女平等も達成されている**

様々な努力によって、特に 2000 年以降、多くの子どもたちが初等教育に入学している。女の子が特に利益を享受している。1999 年の入学率は 91%だったものが、2010 年には 97%まで改善した。男女平等指数も 97 と、許容できるレベルである。

**極めて大きな困難に直面していた多くの国々が初等教育の普及において大き一步を踏み出している**

サブサハラ・アフリカにおける初等学校への入学率は1990年から2010年の間に、58%から76%まで上昇した。初等教育を受けるべき子どもたちの数が増加している中、サブサハラ・アフリカ地域の多くの国々が、教育を受けていない子どもたちの比率を減らすことに成功している。

**子どもの生存状況は改善され始めている**

人口増加にも関わらず、世界での5歳以下の子どもたちの死亡数は、1990年には1200万以上だったものが、2010年には760万人まで減少しており、その勢いは加速している。最も5歳以下の子どもの死亡数が多いサブサハラ・アフリカ地域においては、1990年～2000年間に毎年1.2%ずつ減少していたのに対し、2000年～2010年間は2.4%ずつ減少するなど、減少率が2倍となっている。

**HIV治療へのアクセスはすべての地域において増加している**

2010年の末、途上国に住む650万人の人々がHIVやAIDSに対する抗レトロウイルス治療を受けている。しかしながら2010年の目標には到達していない。

**結核の普及を食い止め結核罹患率を減らすという目標は、達成に向けて順調に進んでいる**

世界的に、2002年から結核罹患率は減少している。そして今日の推測では1990年時の結核による死亡率は、2015年までには半分になるとされている。

**世界におけるマラリア死数は減少している**

2000年以降、マラリア罹患率は世界的に17%減少している。この期間に、マラリアによる死亡率は25%減少している。マラリア感染が発生している99カ国中43カ国において、報告されているマラリア罹患事例数は、2000年から2010年の間に50%以上減少している。

**2012年のミレニアム開発目標の達成状況 改善の偏りについて**

上述したミレニアム開発目標達成状況は、地域によって偏りがある。さらに、2008～2009年の色々な危機後、いくつかのMDGsに関しては進捗が鈍化している。

### 真の豊かさとは？

ミンダナオの孤児の例、施設に来たころはおもちゃなどには全く興味を示さない。

まず食べることに夢中

↓

衣服、容姿に関心が向く

↓

遊べるようになる

↓

笑顔

札幌の路上生活者とのかかわり

公園でテント村を作つてある種の共同体を作つていた。毎週、教会の炊き出し支援。笑顔で食事を囲んで食べていた。

行政からの立ち退き命令

↓

支援の結果全員を居宅に移し生活保護を受給させることができた。

↓

ギャンブル依存、アルコール依存、自己管理ができず、ほとんどが孤独死、入院、路上へ戻る

路上のころは、支え合つて生きる仲間がいた。孤立した結果の破たん

仕事を見つけて自立したのは一人。

### 教会における貧困からの脱出の試み

キリスト教小共同体（基礎キリスト教共同体）

日本における適応は？日本における貧しさ、

社会に目を向けると私たちが関わるよう招かれている事柄が数多<sup>あまた</sup>あります。そしてそれは教会の外にある事柄ではなく、教会の抱えている問題でもあるはずです。子育てに不安を抱くお母さん、不安定な雇用状態で将来に希望を持たない青年たち、メンタルな病をもつて居場所を見つけれない人たち、障がいを持つ子供の将来を憂う親たち、無縁状態に陥っている高齢者たち、慣れない外国生活をおくる留学生や研修生、その他、様々な形で社会の片隅に追いやられ小さくされている人たちはたくさんいます。この様な人たちは社会にも教会の中にもいるのです。福音宣教は、聖書や教理を教えることもさることながら、第一にはこのような人たちと関わりを持つていくことから始まります。必要なことは知識ではありません。共感する心と出向いていく意思です。その為に連帯し支え合う共同体が必要なのです。